



平成 17 年 10 月 14 日

各 位

会社名 イフジ産業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 藤井 徳夫
 (JASDAQ・コード番号2924)
 問合せ先 常務取締役 経営企画室長
 仁田坂 功
 電話番号 092-938-4561(代表)

**「固定資産の減損に係る会計基準」の適用による特別損失の発生
 に関するお知らせおよび平成 18 年 3 月期業績予想 (非連結) の
 修正ならびに配当予想についてのお知らせ**

当期より「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴い、当中間期において必要な減損処理を行い特別損失として計上いたしますのでお知らせいたします。

併せて、最近の業績の動向を踏まえ、平成17年5月10日に公表しました平成18年3月期(中間期及び通期)の業績予想の修正ならびに配当予想についてお知らせいたします。

記

1. 「固定資産の減損に係る会計基準」の適用による特別損失の発生について

「固定資産の減損に係る会計基準」を平成 18 年 3 月期中間決算より適用することに伴い、当社が所有している固定資産の一部について減損処理を行い、当中間期において減損損失(特別損失)を計上いたします。減損損失の見込額は以下のとおりであります。

減損損失 約 390 百万円

上記減損は旧関西工場の土地と建物を対象とするものであります。

2. 平成 18 年 3 月期業績予想 (非連結) の修正 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(1) 中間期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 9 月 30 日) (単位: 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	4,470	207	114
今回修正予想 (B)	4,357	51	343
増減額 (B - A)	112	156	457
増減率	2.5%	75.3%	
前期 (平成 17 年 3 月中間期) 実績	3,732	65	120

(2) 通期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	9,566	500	275
今回修正予想 (B)	9,373	220	173
増減額 (B - A)	193	280	448
増減率	2.0%	55.9%	
前期 (平成 17 年 3 月期) 実績	8,956	127	127

(3) 業績予想修正の理由

中間期

当中間期においては、鶏卵相場が年初から4月頃までは高卵価で推移いたしました。その後は梅雨から夏場にかけて消費が減退する季節的要因に加え、それに追い討ちをかける茨城県での鳥インフルエンザの発生による一般消費や業務消費における需要減、また、年初来の高卵価を受けた餌付け羽数の増加により鶏卵の供給が潤沢になるなどの要因が重なり、5月以降は当社が想定した以上に卵価が低下しました。

このような環境の中、当社は、液卵販売数量の拡大に全力を挙げてまいりましたが、昨年後半からの液卵価格の急激な上昇や、6月に再び発生した鳥インフルエンザの影響等を受けて、ユーザーが一部製品の原料を液卵から粉末卵に切り替えたこと等により液卵販売数量が伸び悩みました。また、昨年の状況を踏まえ、原料不足や国内卵価の高騰が予想されたことから、海外からの調達を行いました。前述の市況展開となったため当初見込んでいたコスト削減効果が発揮できず、当初予想の経常利益の確保が難しい状況となりました。

また、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴い減損損失(特別損失)390百万円を計上することから、当初予想していた中間純利益の確保が難しい見通しとなりました。

通期

通期の業績予想につきましては、新規得意先へ積極的に拡販するなど液卵販売数量の回復に鋭意努力しておりますが、茨城県で発生した鳥インフルエンザが下期の鶏卵市況にどの程度影響を与えるのか予想し難く、当初予定していた経常利益の達成は難しいと判断しました。

また、当期純利益につきましても、減損損失(特別損失)を計上するため、予定していた利益の確保は厳しいとの認識から、通期の業績予想を修正することにいたしました。

3. 平成18年3月期配当予想について

	中間期	期末	年間
前回発表予想		10～20円	10～20円
今回発表予想		10円	10円
(ご参考)前期(平成17年3月期)実績		10円	10円

(配当予想についての理由)

当初10円～20円の範囲で予想しておりました期末配当金ですが、上記のとおり平成18年3月期の業績が前回発表予想を下回る見込みのため、誠に遺憾ながら10円とさせていただきます。

上記の予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績が記載の予想と大幅に異なる結果となる可能性があります。

以上